



## 1 CCSSフォーラムVol.1 「経済的に困難な状況にある児童・生徒への教育支援を考える」を開催しました。



東京学芸大学では、2015年6月10日に「経済的に困難な状況にある児童・生徒への教育支援を考える」と題してフォーラムを開催しました。子どもの貧困問題に詳しい首都大学東京の阿部彩先生をお招きし、会場の合同棟1階大教室には、80名を超える参加者が集まり、立ち見

も出るほどの盛況となりました。

松田恵示センター長が司会、出口利定学長が開会挨拶を行いました。第1部の阿部彩先生によるキックオフレクチャーでは、これまでの貧困に対する認識を覆すような「若者の貧困化」や、現代の「貧困を取り巻く複雑性」、さらには学校が「排除のメカニズム」の一端を担ってしまう可能性など、衝撃的な事実がデータとともに示されました。そのような中で、「包摂する学校」像、社会福祉と教育の連携による可能性など、これからの教育のあり方、教育支援のあり方への提案も出されました。

第2部では、児童・生徒支援連携センター専任教員の柏原寛准教授による教育現場での教育支援の実践報告からはじまり、会場の大学教員、学生、地域の教育支援者からの質疑、意見が出されるなど、活発な議論が行われました。松田恵示センター長がディスカッションを総括し、菅野教副学長による挨拶により閉会しました。

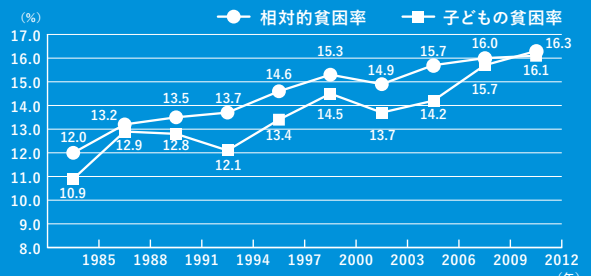


## 2 教育支援の可能性 「包摂する学校へ」というキーワード

“子供の貧困対策に関する大綱によって、「学校が貧困対策のプラットフォーム」として位置づけられたのですが、今、学校が「包摂する場」ではなくて、学校自身が「排除のメカニズム」になってしまう可能性があるのではないかと。これをいつも心に留めておく必要があるのではないかと思います。学校が貧困の子どもにとっては、怖い場所、行きたくない場所になってしまう。まずこれを改めるところが貧困対策の一番のところかなと思っています。「包摂する学校」というのをめざすべきとお願いしたいと思います。”

## 3 「2012年は初めて子どもの貧困率が相対的貧困率を上回った」フォーラム発表より

日本の相対的貧困率（厚労省の公式発表）



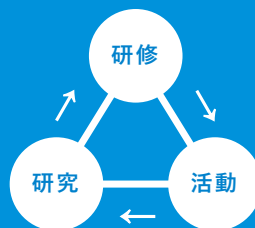
出所：厚生労働省(2014)『平成25年国民生活基礎調査 結果の概況』(年)

## 4 「子どもの貧困に、学校という場所が大きな役割がある。」参加者アンケートより

“学芸大の学部が変化した理由が少し分かりました”  
“教育の方が福祉より積極的なアプローチができる、意識的な接し方を考える必要がある”  
“将来教員になりたい自分にとって、無視できない、直面する難しい問題だ”  
“子どもを変えるのではなく、学校・社会を変えていく必要があると思った”  
“地域とのつながりが大切だと本当に思いました。地域の方が参加されていること、声かけしていることはすばらしい!”

## CCSS学生メンバー募集

CCSS児童・生徒支援連携センターでは、学習障害や経済的困難を抱える児童・生徒への教育支援を行なっていきます。特定の課題に関する研修、教育委員会等と連携した教育支援活動、様々な児童・生徒への教育支援ケーススタディ研究という実践型プロジェクトに参加する学生を募集しています。



CCSS学生メンバー募集の申込みはQRコードから、詳細は下記までご連絡ください。

Mail : CCSS@u-gakugei.ac.jp

Tel : 042-324-7921

# 経済的に困難な状況にある 児童・生徒への教育支援を考える

「大都市部ではあまり目立たないものの地方の附属学校園では、中途退学する児童・生徒が増えつつある。入園・入学後、保護者が経営する会社の経営がうまく行かなくなるなどして家計収入が大きく減るなどの事情がある」(2015/04/27付日本教育新聞)

これまで、「経済的困難を抱える児童・生徒」の課題は、主に地域の学校のものとして捉えられ、国立大学附属学校園とは関係が薄いというイメージがもたれていたようです。しかしながら現在、全国に259ある国立大学附属学校園においても、看過できない状況として捉えられはじめています。

こうした中、国立教員養成系大学、および附属学校の研究開発機能に対してもこれまでにない期待が高まっています。

東京学芸大学(児童・生徒支援連携センター)では、全附連との協力関係を構築し実態把握と対策の検討をはじめめています。

今回のフォーラムでは、「教育の総合大学」としての基幹大学である、東京学芸大学、および附属学校への期待の中、どのような役割を果たしていくべきかを探ります。

## ● オープニング 16:00 ~ 16:10

松田恵示 児童・生徒支援連携センター長

## ● 第一部：ゲストプレゼンテーション 16:10 ~ 16:40

岡山和広氏 全国国立大学附属学校PTA連合会顧問・貧困対策委員会(26年度委員長)

## ● 第二部：ディスカッション 16:40 ~ 17:25

## ● クロージング 17:25 ~ 17:30

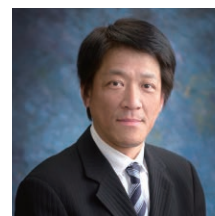
山崎幸一 東京学芸大学附属学校運営参事

# 7/23 (木)

16:00 ~ 17:30 (開場15:30)

芸術・スポーツ2号館 2階  
第一会議室

## プレゼンター



### 岡山和広氏

全国国立大学附属学校PTA連合会顧問・  
貧困対策委員会

#### 講師略歴

全国附属学校PTA連合顧問・貧困対策委員会(26年度委員長)  
2014年 全国国立大学附属学校PTA連合会 会長  
同 熊本大学養育学部附属中学校PTA 会長  
2011~13年 全国国立大学附属学校PTA連合会 副会長

#### 全附連とは

全附連とは国立大学附属学校教員で組織する「全国国立大学附属学校連盟」と附属学校PTAで組織する「全国国立大学附属学校PTA連合会」の総称です。国立大学附属学校は全国の56大学に幼、小、中、高、中等教育、特別支援学校が269校設置されており約9600人の子どもが通っております。全国の附属学校が、大学、学部または地域との連携した教員の養成と研修、学校教育の実践研究による指導法の開発など我が国の公教育の根幹を支え教育水準向上を目指す役割を担っていくために連盟、連合会と両輪で活動しながら附属学校を支援する組織です。



東京学芸大学  
パッケージ型支援プロジェクト  
児童・生徒支援連携センター  
小金井市貫井北町4-1-1合同棟2F  
Mail : CCSS@u-gakugei.ac.jp  
Tel : 042-329-7921